

来月、アジア多国籍医師団発足

国の枠を超え 難民救おう

カンボジアやネパールなどで医療面からのボランティア活動を続けているアジア医師連絡協議会（AMDA）＝本部・岡山市椿津、菅波内科医院内Ⅱが五月、アジア十四カ国の医師らで組織する「アジア多国籍医師団」を発足させる。各国の医師らが国の枠を超えて医療チームを組み、難民らの救済活動を行う。

A M D A

多国籍医師団は日本をはじめ被災民などへの緊急を要する医療救援を目的として、ユ、フィリピン、タイ、インド、パキスタンなど十四カ国が参加。難民や事故、自然災害によ

り被災民などへの緊急を要する医療救援を目的として、ユ、フィリピン、タイ、インド、パキスタンなど十四カ国が参加。難民や事故、自然災害によ

日本など14カ国参加

発足後はまずAMDAの病院やジプチ領内の難民キャンプなどに派遣。肺炎などの呼吸器疾患やマラリア難民救援を中心として展開。一カ月から一年までの期間で、医師、看護婦

ら約三十人をソマリア北部の病院やジプチ領内の難民キャンプなどに派遣。肺炎などの呼吸器疾患やマラリア難民救援を中心として展開。一カ月から一年までの期間で、医師、看護婦

のNGOに比べ対応が遅れがちだった。多国籍医師団は十四カ国にまたがるネットワークを生かし、各支部から直接、医師を送り込むなど派遣先の状況に迅速に対応。また現地医師が仲介を務めるため、伝統医療や宗教、言語を理解でき、患者のニーズを的確に把握できるのが特徴。

現在AMDA本部では、経験や専門分野、派遣希望先など会員リストを作成しており、登録者は医師、看護婦合わせて約五百人になる見込み。

まずソマリア 中心に活動

これまで日本のNGOが海外援助を行う場合、情報収集や募金、人材集めなどに時間を費やし、欧米諸国

AMDAの菅波茂代表（右）は「二年間の海外医療支援活動を通じ、多国籍医師団の稼働態勢が整った。日本の国際医療貢献の在り方を考える上で、一つのモデルとなれば」と話している。

ソマリア難民の診療にあたるAMDAの医師ーシプチのアリアデキャン

